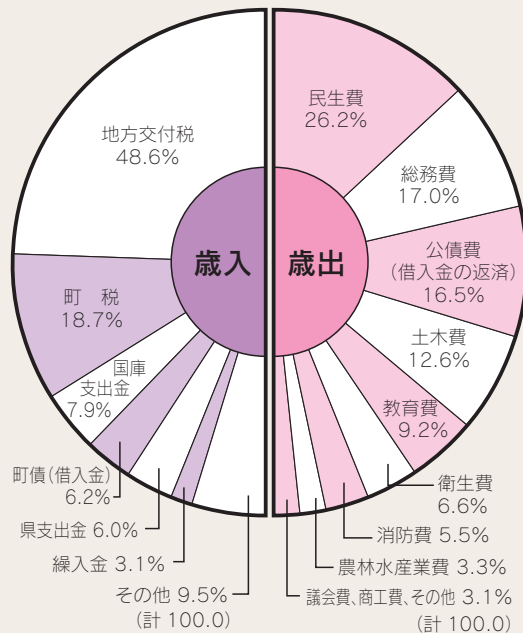


平成20年度決算額

◆一般会計 歳入 67億6,427万円
歳出 66億5,260万円



◆特別会計など (上段=歳入、下段=歳出)

国民健康保険	27億5,620万円 26億3,721万円
後期高齢者医療	1億3,637万円 1億3,551万円
老人保健	1億8,752万円 1億8,746万円
介護保険	14億1,236万円 13億6,689万円
介護保険(サービス事業勘定)	328万円 143万円
簡易水道事業	8,488万円 8,070万円
漁業集落排水処理事業	1億4,763万円 1億4,699万円
公共下水道事業	4億636万円 4億555万円
水道事業	収入 4億4,482万円 支出 5億6,222万円

参考 平成20年度一般会計で使われた1世帯当たりの金額 (20年4月1日現在 7,222世帯)

民生費(福祉の向上のために使われる経費)	241,167円
総務費(一般事務費などに使われる経費)	157,092円
公債費(事業を行うため借りたお金の返済に充てる経費)	151,963円
土木費(道路の整備や区画整理事業に使われる経費)	116,459円
教育費(小中学校の管理や社会教育に使われる経費)	84,726円
衛生費(各種検診やごみ処理に使われる経費)	60,834円
農林水産業費(農林水産業の振興に使われる経費)	30,356円
その他(消防費、議会費、商工費など)	78,561円
合計(1世帯当たり)	921,158円

問 保育園民営化の公募をどのように進めるのか。また

保育園民営化をどう進めるのか

副町長 当面は町民の憩いの場、避難場所として活用したい。その後の利用計画については未定であり、今後検討していきたい。

旧図書館・公民館跡地 おぐら山の利用計画は

問 旧図書館・公民館などを解体しているが、おぐら山の今後の利用計画は。

問 今後、高齢化も進んでいくため福祉関係の仕事も産業の一部と考えてもいい

福祉関係の仕事 産業と考えるのは

副町長 福祉を一つの産業としてとらえることについては同感である。今後、町としても、そのような方向に目を向けていきたい。

問 3年前から窓口の対応が悪い、あいさつがないといってきたが、ようやく取り組み始めたのか。それともやっとなつて成果が現れてきたのか。

副町長 職員の接遇、あいさつについては、町長就任

職員の接遇とあいさつ どう取り組んできたか

副町長 福祉を一つの産業としてとらえることについては同感である。今後、町としても、そのような方向に目を向けていきたい。

問 3年前から窓口の対応が悪い、あいさつがないといってきたが、ようやく取り組み始めたのか。それともやっとなつて成果が現れてきたのか。

以来、第一に掲げて職員に徹底してきた。まだ足りない部分があるのはご指摘のとおりであり、今後も職員一丸となつて取り組んでいきたい。



おぐら山は「町民の憩いの場・避難場所」として整備中です(役場5階から見た様子)